

合同教育研究会議（6月9日開催）議事概要

1 開催日時

令和3年6月9日（水）13:00～14:15

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、狩野副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、猪股教育支援本部長、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、劉高等教育推進センター国際教育研究部長、福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、亀田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、川崎盛岡短期大学部長、長坂盛岡短期大学部生活科学科長、松田宮古短期大学部長、大志田宮古短期大学部経営情報学科長、菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）、長谷川委員（学外委員：製品評価技術基盤機構理事長）
（事務局）鈴木事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、鎌田学生支援室長、藤澤研究・地域連携室長、北島企画室長、西川総務財務課長、高橋宮古事務局長、八木主幹、渡部主査

4 会議の概要

議事録確認

前回国議5月12日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

審議事項

（1）令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

橋本大学評価副委員長から、資料に基づき説明があった。

内容について、原案のとおり了承された。

（2）中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する報告（案）について

橋本大学評価副委員長から、資料に基づき説明があった。

学長から、評価委員の立場から、教育、研究、地域貢献の目標数のバランスをどう説明するかを考えなければならないとの発言があった。

橋本大学評価副委員長から、今期の計画では変えられないが、次期中期計画の策定に当たっては、目標の数のバランスを検討する必要がある旨回答があった。

内容については、原案のとおり了承された。

協議事項

(1) 警戒段階2となった場合の遠隔授業への移行に関する考え方について

猪股本部長から資料に基づき説明があった。

また、北島企画室長から、資料1 基本的な考え方⑤「遠隔授業環境が整わない学生及び教員に対しては、企画本部において申請に基づき必要な機材等の貸与を行う」の補足として、企画本部においてノートPC、モバイルルーターを調達し、遠隔授業に移行した場合に備えて、学生の事前申請の受付準備を進めている旨説明があった。

委員から、「大学施設へ入構が認められる範囲内において」という文言の判断はどのように行うかとの質問があり、これに対し、猪股教育支援本部長から、危機管理対策本部においてその時の感染状況に応じた学生及び教職員の構内立入禁止の判断がなされるとの回答があった。

委員から、遠隔授業とは教員がどこにいる場合を想定しているか、また遠隔授業以降のための3日間は何を行うための猶予期間か、土日祝日を挟む場合は実質1日しか期間を確保できないのではないか、との質問があった。

これに対し、関屋教育支援室長から、遠隔授業は教員が学内以外にいる場合も想定していること、また遠隔授業移行に要する3日間は、学内の消毒や遠隔授業のための期間の目安であり、コロナ感染者が発生した曜日によって移行期間が変わる場合がある旨回答された。

また、委員から、パソコンを持っていない学生に端末を貸し出す手続も3日間の中に考慮されているかとの質問があり、関屋教育支援室長から、そう認識している旨回答があった。

学長からは、教員の講義の準備については、今の状況下においては3日にとらわれず、すぐに対応できるようにしておくべきである旨の発言があった。

報告事項（口頭報告）

(1) 令和3年度全学FD・SDプログラム第1回高等教育セミナー開催要項について

猪股高等教育企画部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、講演者がオンラインなので参加する側もオンラインでということを検討してもらいたい旨発言があり、関屋教育支援室長から、検討する旨回答があった。

また、学長からZoomの使用の可否について質問があり、関屋教育支援室長から、技術的には可能である旨回答があった。

(2) 令和2年度国際交流推進委員会の取組実績について

石堂副学長から、資料に基づき説明があった。

これに関連して、学長から、国連アカデミックインパクトについて、各学部からの昨年度の資料提供に感謝する旨発言があった。

(3) 令和3年度前期「English Time」の開催について

猪股教育支援本部長から、資料に基づき説明があった。

(4) 北いわて・三陸地域活性化推進研究の採択課題の決定について

狩野研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。

学長から、申請課題を落とすというよりも寧ろアイデアを育てていくことが主であり、何か考えがあったらお願いしたいとの発言があった。

(5) 科研費研究計画調書事前チェックの受付状況について

狩野研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。

学長から、申請率100%を目指すこと、また、自分の考えをまとめる機会として、ぜひ申請をして欲しいとの発言があった。

また、狩野研究・地域連携本部長から、学部別の採択資料を作成し、来月の教育研究会議で報告すること、また、毎月の受付状況を報告していくので、教員の方に関心をもってもらい申請を進めてもらいたい旨の発言があった。

(6) 令和3年度の主な学内情報システムの更新について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、第5次情報システム整備計画は何年度までかとの質問があり、令和5年度までであり、今年度後期から第6次情報システム整備計画の策定に入る予定である旨回答があった。

(7) 令和2年度卒業年次生アンケートの結果について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

報告事項（資料報告）

(1) 令和3年度岩手県立大学副専攻「いわて創造教育プログラム」第3期生修了証授与式開催結果について

(2) 文化交流スペース「Stella」の設置について

(3) 令和3年度沿岸・県北地区入試相談会の実施について

(4) 令和3年度キャンパス・アテンダントの決定について

(5) 令和3年度ライブラリー・アテンダントの決定について

(6) 令和3年度第1回学務調整会議の開催概要について

(7) 「いわて高等教育コンソーシアム」令和3年度学内体制等について

(8) 岩手県立大学ゲストハウスの利用状況について

- (9) 令和2年度学生の健康管理・学生相談・特別支援に係る対応状況について
- (10) 令和2年度研究倫理審査委員会の審査結果概要について
- (11) 令和3年度公開講座・滝沢キャンパス講座の開催について
- (12) 令和3年度公開講座（地区講座）の対応について
- (13) 令和3年度岩手県と岩手県立大学の意見交換会について
- (14) 「令和3年度第2回職員衛生委員会」の結果について

その他

委員から、科研費の取組について、ぜひ積極的に行ってほしいとの発言があった。

また、学生アンケート調査について、回答率30%は分析に耐え得るのか、もっと回答率を上げるようにしてもらいたいとの発言があった。

また、遠隔授業について事前に検討し、学生に機材の貸与を行うことは良いことだと思うとの発言があった。

さらに、遠隔講義だからできることに着目し、岩手県立大学のいいところを発信できるとよいとの発言があった。